

予算決算常任委員会  
(文教厚生分科会)

令和8年3月13日

大治町議会 予算決算常任委員会記録（文教厚生分科会）

招集年月日	令和 8 年 3 月 13 日
招集場所	大治町役場 第1委員会室
開 会	3 月 13 日 午前10時03分（第1日）
出席委員	1番：池田耕介                      3番：手嶋いずみ                      6番：鈴木 満 9番：松本英隆                      10番：林 健児                      12番：林 哲秀
欠席委員	な し
委員外議員	2番：八神太紀                      4番：後藤田麻美子                      8番：若山照洋 11番：吉原経夫
会議事件説明のため出席した者の職氏名	町長：鈴木康友                      教育長：梶浦寿男 総務部長：安井慎一                      福祉部長：大西英樹                      教育部長：水野泰博 福祉部次長兼民生課長：猪飼好昭 長寿支援課長：松木田英作                      保険医療課長：水野克哉 保険医療課主幹：鈴木雅之                      住民課長：立松 修 子育て支援課長：古布真弓                      保健センター所長：森本健嗣 多世代交流センター所長兼介護・障害認定審査課長：立松 浩 学校教育課長：太田悦寛 社会教育課長兼公民館長：加藤裕一 スポーツ課長兼スポーツセンター館長：佐藤友哉 財政課長：富田伸司 収納課長：加藤真二                      会計管理者兼会計室長：石塚秀樹
職務のため出席した者の職氏名	議会事務局長：横井宗宣 係長：櫛田初代

付託事件	議案第2号 令和7年度大治町一般会計補正予算（第7号） 議案第3号 令和7年度大治町介護保険特別会計補正予算（第3号） 議案第4号 令和8年度大治町一般会計予算 議案第5号 令和8年度大治町国民健康保険特別会計予算 議案第7号 令和8年度大治町介護保険特別会計予算 議案第8号 令和8年度大治町後期高齢者医療特別会計予算 議案第19号 令和7年度大治町一般会計補正予算（第8号）
------	---

令和8年3月大治町議会定例会  
予算決算常任委員会（文教厚生分科会）審査日程

（第1日）

令和8年3月13日（金）午前10時03分開会

1 開会宣言

2 審査日程の報告

日程第1 議案第2号 令和7年度大治町一般会計補正予算（第7号）

日程第2 議案第3号 令和7年度大治町介護保険特別会計補正予算（第3号）

日程第3 議案第4号 令和8年度大治町一般会計予算

日程第4 議案第5号 令和8年度大治町国民健康保険特別会計予算

日程第5 議案第7号 令和8年度大治町介護保険特別会計予算

日程第6 議案第8号 令和8年度大治町後期高齢者医療特別会計予算

日程第7 議案第19号 令和7年度大治町一般会計補正予算（第8号）

~~~~~ ○ ~~~~~  
午前10時03分 開会

◎文教厚生分科会委員長 手嶋 いずみ

ただいまの出席委員は6人です。定足数に達していますので、ただいまから予算決算常任委員会文教厚生分科会を開会します。

本分科会が担当する案件について、お手元に配付の日程のとおり審査を行ってまいります。

これから本日の会議に入ります。

なお、分科会におきましては討論・採決は行わず、質疑のみ行いますので質疑は簡潔にお願いします。

議案の討論・採決は予算決算常任委員会全体会また本会議にて行います。

日程第1、議案第2号令和7年度大治町一般会計補正予算（第7号）を議題とします。議場で提案説明がありましたので、直ちに質疑に入ります。

質疑のある方、どうぞ。

〔「なし」の声あり〕

◎文教厚生分科会委員長 手嶋 いずみ

ないようですので、これで質疑を終わります。

日程第2、議案第3号令和7年度大治町介護保険特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

議場で提案説明がありましたので、直ちに質疑に入ります。

質疑のある方、どうぞ。

鈴木委員。

◎鈴木 満委員

19 ページ居宅介護サービスの給付費等っていうことで、今回も補正で4600万円くらい補正を組まれているんですが、7年の12月の一般会計補正予算でも扶助費のほう大変大きな金額が上がってきております。

当初予算でどんな見込みで、見るとみんな当初の見込みより増加しているっていうことで書かれているんですけど、これ当初でね、どういう基準っていうのか、見込みでつくれたのかちょっと説明していただきたいと思います。

◎長寿支援課長 松木田 英作

はい。介護サービス給付費ですが、この保険給付費につきましては過去の実績から予算計上しております。令和7年度の当初予算につきましては、令和6年度と比較しまして4.6%の増額、約8099万円の増を見込んで計上しております。

また、介護保険におきましては3年間の計画の中で見込みのサービス量を見込み、給付費を出しておりますが、7年度の計画でいきますとこの保険給付費におきましては19億1300万円ほどで、計画ではそうなっておりますが、過去の、増額してきておりますので、それよりそれを上回る当初では19億4800万円ほどの標準給付費を見込んで当初予算組んでおります。結果としまして7年度サービスの需要が伸びまして今回補正することになったものでありまして、当初予算計上に当たりましては過去の実績等を踏まえですね、増えてきておりますのでしっかり増額を見込んで積算しておりましたが、繰り返しになりますが、結果としましてサービスが伸びたということで、今回補正をさせていただいております。

◎鈴木 満委員

どうしてもね、これ7年度見ますといろいろ財政難もあったのかなというふうに感じるんですけど、これやっぱり補正ありきの予算、当初予算を組んだのかなと。やっぱり、当初予算ってちゃんとね、いろいろ決算なり見て予算を立てていかなあかんというもんだと思うんですが。補正がこんだけ大きな金額がボンボンって途中で上がってくると、ちゃんとやっとなるのかなという感じになります。

それでこの令和8年度の予算編成方針読ませていただきました。その中でもこれ年度途中においての安易な補正措置は講じないとか、補正予算を想定した予算要求は原則行わないこととか、いうふうに書かれております。今回のこの予算っていうものはこうだったことで、8年度においてはそういったことがないということで大丈夫でしょうか。

◎福祉部長 大西 英樹

はい。今回介護特別会計、その他一般会計に扶助費が組まれておりますけれども、委員の御指摘のことも十分考慮して8年度当初予算につきましては、6年度の決算の状況、それから7年度はまだ決算を迎えておりませんが、補正をさせていただいているその増額分も見込みながら、6年度7年度の決算で伸びてきているのであれば、7年度決算見込みよりも少し膨らませたような見込みも部分的にはさせていただいて、これは補正が絶対ないかというところとまた見込みが難しいところもありますけれども、なるべく大幅な補正がないような当初予算を組ませていただいております。

◎文教厚生分科会委員長 手嶋 いずみ

他にありませんか。

〔「なし」の声あり〕

◎文教厚生分科会委員長 手嶋 いずみ

ないようですので、これで質疑を終わります。

日程第3、議案第4号令和8年度大治町一般会計予算を議題とします。

議場で提案説明がありましたので、直ちに質疑に入ります。

質疑のある方、どうぞ。

池田委員。

◎池田 耕介委員

はい。お願いします。まず、153、154 ページの3款1項1目社会福祉協議会運営補助事業費、運営補助金につきましてお伺いをしますが、補助金の交付要綱を見たんですけども、予算の範囲内において交付をするということで、これ交付金は大体その予算がこれぐらいっていう、大治町として社会福祉協議会に大まかな枠といいますか上限といいますかをお伝えをした上で、その中で社会福祉協議会が予算編成をしていただくっていう認識でよろしいでしょうか。

◎福祉部長 大西 英樹

補助要綱には予算の範囲内とあります。予算編成をする際にはまず私どものほうから社福に幾ら補助金の枠があるということで相手に投げかけるというやり方ではなくてですね、実際に前年の決算とか例年の予算を見ながら、社会福祉協議会、団体のほうはまずかかる経費というものを概算で出してくださいます。その数字を我々が担当部局が見まして調整をいたします。例えばこういう行革の時期でありましたので今回は少し行革で経費を削れるところがないとか、そういったところの効率も図りながら予算を今回の場合ですと絞っていく形にはなりました。絞った形で担当課として予算をまとめて財政当局に予算要求をしたら、そういう流れでございまして、委員おっしゃるような、こちらから枠で例えば5000万とか1億とかって言って投げかけて、範囲でっていうようなスタンスではこの補助金に関してはそういう形ではありません。

◎池田 耕介委員

165、166の3款1項4目シルバー人材センター運営補助事業費についてもお伺いをしたいですが、こちらも社会福祉協議会の今御説明頂いたものと同じような形で編成という認識でよろしいでしょうか。

◎福祉部長 大西 英樹

そのとおりでございます。

◎池田 耕介委員

ちょっとページが飛びまして287、288ページ。9款5項1目生涯スポーツ振興費だったかな、生涯スポーツ振興費のスポーツ協会助成金、スポーツ少年団助成金、総合型地域スポーツクラブ助成金につきまして、これそれぞれ例年過去の金額との比で見ますと、1個目スポーツ協会助成金は過去に280万、令和5年6年7年と続いているものが、令和8年度196万円、70%の枠におさまっており、スポーツ少年団助成金も同じように過去3年間見ましたが、150万で来ているところを105万円。総合型地域スポーツクラブ助成金は令和5年490万円、令和6年480万円、令和7年480万円、令和8年度、来年度は380万円、79%かな。ちょっとこれが多いかなと思いますが、こちら御説明をお

願いたいです。

◎スポーツ課長 佐藤 友哉

スポーツ協会助成金、スポーツ少年団助成金及び総合型地域クラブ助成金の減額についての御質問です。

スポーツ協会の助成金及びスポーツ少年団の助成金につきましては、行財政改革の観点もございまして一律 30%削減ということで各団体のほうにお願いをしました。その検討をした結果ですね、スポーツ協会の助成金につきましては大会費ですとか駅伝費、広報紙の作成、このあたりを削ることが可能であるというような話もございましたので 30%削減をさせていただきました。

スポーツ少年団につきましては団体育成費、こちらを均等割というものがありますが、もうこちらを団体のチームごとに削減ということでお願いをしまして、こちらも御理解いただいた上で 30%削減をしております。

総合型地域スポーツクラブの助成金につきましても、当初は 30%の削減をお願いしたところですが、こちらにつきましては人件費の補助というところもありまして、なかなかちょっと 30%の削減は厳しいというのもございましたので、削減率としましては 20.8%になりますが、100 万円減額をさせていただきました。こちらもいずれにしてもお話をした中で御理解いただいて削減したものとなっておりますのでよろしく願います。以上です。

◎文教厚生分科会委員長 手嶋 いずみ

他にありませんか。

池田委員。

◎池田 耕介委員

総合型地域スポーツクラブが事業として年間講座、部活動地域展開、授業後のスポーツチャレンジをやっていると認識をしていますが、先ほどの人件費がっていう話ですが、どこの人件費がというか、何でしょう赤字だったら削ったらいんじゃないかなっていうふうに、感覚なんです。多分ほかのいろいろなところ、今、いろいろ聞いてきたところに関しては多少多分団体さん、何でしょう、本来やりたいけど削るとかっていうことをしているのかなあという中で、このスポーツクラブ助成金だけ削らないっていうところ違和感があるので、どの年間講座なのか地域展開なのかスポーツチャレンジなのか、どの部分が削るのが難しいと言われているというのか。ちょっともう少し教えていただきたいです。

◎スポーツ課長 佐藤 友哉

総合型地域クラブへの助成金につきましては、こちらのスタッフが全部で 4 人みえます。そこが総務費として総務費の中の管理費として、スポーツプラスおおはるの中の予算としては計上しておりますが、そちらに対する助成金が今回の補助対象となっております

まして、そちらはちょっと削るのが、30%削減はちょっと難しいというような話がございましたので100万円の減額に抑えているところでございます。そのほかの部活動の地域移行ですとか、その辺はまた違う科目での予算立てとなっております。以上です。

◎池田 耕介委員。

スタッフ4人で難しいんだったら業務を削ったらいんじゃないかなと思うんですが、そういう提案をされたんですか。

◎スポーツ課長 佐藤 友哉

スポーツプラスおはるとのお話の中で、今後部活動の地域展開、来年度は月1回から月4回と業務も増えるということもございます。また、新たに歳入を生み出すということで、スポーツチャレンジ、小学生対象とした運動の教室あるんですけども、こちらの参加費を上げることで入のほうも増やしていく努力もしていくというようなお話もした中で、総合的に勘案してこの額に決まったということでございます。以上です。

◎文教厚生分科会委員長 手嶋 いずみ

他にありませんか。

池田委員。

◎池田 耕介委員

はい、ほかとの整合性っていうところが気になって聞いたんですけども。

ちょっと聞くところを変えますが。259 ページ 260 ページ教育費、小学校費の学校管理費、学校事務管理費かな、10 番需用費の消耗品費ですね。来年度 1297 万 2000 円が上がっていますが、これも過去のもの見ましたが、過去令和5年、令和6年、令和7年と順調にといえますか毎年右肩下がりで消耗品費下がっておりますが、これは学校として苦しくないんですかね。先ほど人件費は削るのは苦しいという話ですが、需用費は苦しくないのか。どういった認識かお伺いします。

◎学校教育課長 太田 悦寛

消耗品費についてのお尋ねでございますが、こちらの学校のほうと予算、学校のほうから予算要求というところもありまして、この金額を上げさせていただいております。

学校予算のほうも行政改革ということもありますので、予算のほう削減のほう努めていただくということで、今回の金額で予算上げておりますので、よろしくお願ひします。

◎池田 耕介委員。

はい、同じく同じくじゃないページ変わるのかこれ。263、264 ページの学校備品購入費についてもこれもさらに大きくというか減っております。来年度は備品購入費全般のところで604万5000円ですが、これ令和5年度は1000万7000円、令和6年度は894万6000円、令和7年度は690万2000円と下がってきて、令和8年度604万5000円ですが、こちら質問の意図としては同じになりますが、学校現場はこれは困ってないとか、運営はこれは苦しくないんでしょうか。お伺いします。

◎学校教育課長 太田 悦寛

一般校具備品のところかと思いますが、備品につきましては年によって購入する物が変わるということで、例えば給食備品みたいなちょっと金額の大きなものを買ったりすると金額のほうは上がったっていうことはあります。そういったものもありまして、例年机椅子などを児童用の机椅子ですとか購入をしておりますが、この金額が大きく動く理由ってというのはちょっと大型の備品を買ったときっていうところがございますので、来年度につきましても学校のほうの予算要望等も打ち合わせしまして、必要なものを購入するというところで予算を組ませていただいております。以上です。

◎池田 耕介委員

これは今の金額令和8年度だったり各年度の金額で学校として必要だと考える備品がきちっと更新されているという認識でしょうか。お伺いします。

◎学校教育課長 太田 悦寛

全ての学校要望が満たせるというわけではございませんので、予算のほうも限りがございますので、その中でも学校が必要とするものをなるべく購入できるように学校教育課としても予算要求のほうをしております、その結果が予算のほうに反映されているということでございます。以上です。

◎池田 耕介委員

備品だったり消耗品だったりですね、どうしようかな、一般的な学校現場の話になるので教育長にお伺いをしたいですが、消耗品だったり足りない場合にですね、学校の先生、教員が自分でお金を出して消耗品だったりを買うっていうことが、僕はあったっていう認識ですが、そういったことをこの大治町であるかどうか別にして、一般的に学校現場としてそういう状況があるのかなのか、学校現場の感覚を教育長にお伺いしたいです。

◎教育長 梶浦 寿男

貴重な御質問ありがとうございます。財政等それぞれの市町村によって異なりますが、自分の経験してきた部分だとか情報を集めたところだと、個人的に使うものについては個人で消耗品を購入するというそういった場面はあると聞いております。以上です。

◎文教厚生常任委員長 手嶋 いずみ

他にありませんか。

林 健児委員。

◎林 健児委員

今、先ほどの委員の質問でもありましたけど、各種団体補助金、これがですね20%減のものもあれば25%減のものもある、そして30%減のものもある、ということで私の一般質問の説明でもですね町長、財政状況はよくなってきたという状況でお話しされ

ています。これを今回の予算の中にですね、例えば補助金のカット率を10%にするとか、15%でいけるとか、そういったぎりぎりの線をやっぱ考えたっていうそういうような会議は行いましたか。

◎町長 鈴木 康友

各団体それぞれの数字については部局でお願いしているところがございます。我々としては全体の分の予算、そして削減の目標等々をお示しをさせていただいて、先ほども各項目、各課、各団体についてはそれぞれ数字の確認をさせていただいている。その集約を集めさせていただいているということでございます。以上です。

◎林 健児委員

ですから、そういった打ち合わせ等ですね、各課の中でこういった、例えばスポーツ協会だったら何%だよとか、そういったことを各団体によってパーセンテージが違うわけですね。それを例えばこれ10%ぐらいでとか、一律、例えばね、一律10%だったらいけるんじゃないかとか、本当に20%下げているところと30%カットしているところといろいろあるわけですよ。そういう状況の中で一律10%だったらいけるんじゃないかとか、そういったことを考えましたかということを知っています。

これ当然、先ほど言われたようにスポーツ協会の何でしたっけさっきの、それだけはやれないというふうに言ってきたと。じゃあこれ全部の団体にそういうこと話をしたかという。本当にやれないというところも我々議員には「こんなんではやれんよ」ということを言われているところもあるわけですよ。ですからそこを、じゃあ今のスポーツのあれは言ってこっちは言ってないと。言ってないところは我々に言うてくる。そういったことをどういう基準でそういうふうに決めたのか、どういう基準でそういうふうにパーセンテージが違うのか、ちょっとその辺のどこ教えてください。

◎福祉部長 大西 英樹

まず、行革プランの方針で30%というのが提案されました。それに基づいて各担当部局が所管する団体とお話をさせていただいたという認識です。その中で例えば福祉部局の中でも30%に至っていないものもあります。それはその補助の中身が例えばおおむねほとんどが人件費であったり、例えば、海部地区の負担金を払わなきゃいけないのでその金額は大半を占めているので30%は無理、いろんな理由があります。委員お尋ねの30%無理なので20%にもう1回ちょっと下げようとか、そういった議論は町全体としてはありません。しておりません。ほかの団体の中でも私が聞く中では、まだ予算が通ってからお話をするという団体もあるというふうに聞いておりますので、そこら辺は私の今の福祉部長としてお答えできる範囲としてはそこまでしかないんですけども、今委員お尋ねのじゃあ30が無理なら20にしようとかそういった議論は今までは僕はなかったという認識を持っております。以上です。

◎教育部長 水野 泰博

教育部局のお話になるんですが、一番最初行革の中で単独費補助 30%削減というのが示されました。基本的には全て 30%削減を満たさないといけないというような最初指示だったのでそれで動かしていただいたんですが、例えば社会教育課の話になりますが、太鼓保存会さんとかですと、実は各地域にですね、ほかの自治体に出向いて演奏していただいているようなことがあるんですね。その場合、社会教育課のほうに出演依頼が来るようなやつですね、社会教育課のほうから太鼓保存会さんに出演をお願いするようなやつに対して交通費ぐらいはお出ししたいという思いがあって、それ計上をしとったんですが、それも 30%切るのほうちが頼んでいる部分を 30%切るのはちょっと何か違うんじゃないかなというようなこととか、あとは文化協会なんかで大治町との共催事業がございます。共催事業も補助の補助金の中に入れてはいるんですけど、そこも最初切るような 30%ですと切るような形になってしまうんですが、そこは町との共催ということでは、我々がやりたい部分ということがあったのでそこは 30%切らずに昨年並みの補助を出させていただいて、御自分たちの活動の中の費用は 30%をとということで目指させていただいて、結果 30%までいってないような団体も何個かあるというふうに考えております。あとスポーツ課のほうもですね、先ほど話がありました総合型スポーツクラブについてはそういった状況ですが、方針としては全て同じようなやり方で進めてきております。以上です。

◎町長 鈴木 康友

委員のおっしゃる 10%でいかなかったのか、20%ではいかなかったのかというところで、我々もそこは財政当局ともどこまで御理解いただけるのかというところは最初の予算編成の枠を方針を決める段階ではいろいろとお話をさせていただきました。まず全体の枠、そして予算の今の状況というものを大枠を決める上で、30%の削減についてちょっと御理解をいただかなくては予算の全体の枠として、そして財政調整基金の繰入れ、額についての負担という町負担というところを勘案をさせていただきました、どうか 30%お願いできないかというところで各部局に各団体、交渉をいただいたという流れになっております。以上です。

◎林 健児委員

ということは、全団体に予算を決める前にお話をされたということですか。

◎福祉部長 大西 英樹

福祉部局の所管する団体は、そういうお話はさせていただいた上で予算の提案をさせていただきます。

◎文教厚生常任委員長 手嶋 いずみ

他にありませんか。

教育部長。

◎教育部長 水野 泰博

教育部局についても、基本的には事前にお話はさせていただいているというふうに思っております。以上です。

◎文教厚生常任委員長 手嶋 いずみ

他にありませんか。

池田委員。

◎池田 耕介委員

はい、済みません。1個聞き忘れました。253、254の教育費、教育総務費の学校教育総務事務費、使用料及び賃借料のバス借上料につきましては、何に利用するバスかっていうまず用途をお伺いします。

◎学校教育課長 太田 悦寛

はい、主なところでいきますと、中学校の部活の遠征などに使われます。あとは小学校のほうの校外学習でも一部使うものがございます。以上です。

◎池田 耕介委員

これがですね、令和8年度は293万1000円で上がっていますが、昨年度、一昨年度とかで言いますと488万4000円、令和5年度432万円かなと。60%ほどに大分下がっておりますが、先ほどの大治太鼓さんだったかな、の共催でとかっていう話で言いますと、例えば部活動の大会とかで行っても共催では別にはないですが海部地区で開催をしているだったりとか、そのまま勝ち上がって西尾張、愛知県大会だったりとかっていうものは別に、自分で勝手にやっているものではないという認識なんですけど、これは、60%におさまっている。先ほどのどこかから依頼があったものに関しては昨年度並みのっていうそのあたりのそごというか、今回これを60%におさまっている、おさめていることについてお伺いします。

◎学校教育課長 太田 悦寛

今回のバス借上料の減額についてでございますが、大会に参加する際に行く会場、例えば今回からお願いしているのは、公共交通機関の会場が最寄り駅から徒歩で10分以内ぐらいでたどり着けるとしたら、バスの使用は控えていただいて公共交通機関でお願いしたいというようなことも学校にお話をさせていただきまして、今回、使用台数の見込みのほうが増減するというので、予算のほうを減額したものでございます。以上です。

◎池田 耕介委員

人はそれで動けるとしてもですね、用具だったり部活動によってはあつたりもしますし、何でしょう。バスが、例えばお金がないから出せないっていう場合、当然、保護者が配車をするであつたりとか、もしくは子供から徴収をするなり部費、子供から徴収した部費から、バスを部単位で借りるっていうふうになると、バス代を大治町として出せない部分を負担を子供たちなり保護者なり、そのお金なり時間なりいろいろすること

になると思いますが、そのあたりの認識はいかがでしょう。

◎文教厚生常任委員長 手嶋 いずみ

暫時休憩とします。

~~~~~ ○ ~~~~~

午前10時37分 休憩

午前10時38分 再開

~~~~~ ○ ~~~~~

◎文教厚生常任委員長 手嶋 いずみ

休憩前に引き続き会議を開きます。

学校教育課長。

◎学校教育課長 太田 悦寛

済みません。ちょっと議員のおっしゃる子供たちからお金を集めてバスを使っているというような実態はちょっとこちらでは把握しておりません。そういったことはないかなと思っております。

今回の予算計上に当たりまして、学校のほうとも打ち合わせを重ねさせていただきまして、この予算計上となっております。例えば東海大会とか全国大会みたいな、ちょっと、遠くに行くような大会があった場合には、ちょっとそこまでは見込んでおりませんので、別途、補正予算を上げさせていただくとかちょっと違った形で対応するということもありますけども、ここで想定しているのが海部地区の大会、西尾張大会、愛知県大会ぐらいまでの内容でバスの運行をやってということで話をして予算計上しておりますので、よろしくをお願いします。

◎文教厚生分科会委員長 手嶋 いずみ

他にありませんか。

〔「なし」の声あり〕

◎文教厚生分科会委員長 手嶋 いずみ

ないようですので、これで質疑を終わります。

日程第4、議案第5号令和8年度大治町国民健康保険特別会計予算を議題とします。

議場で提案説明がありましたので、直ちに質疑に入ります。

質疑のある方、どうぞ。

〔「なし」の声あり〕

◎文教厚生分科会委員長 手嶋 いずみ

ないようですので、これで質疑を終わります。

日程第5、議案第7号令和8年度大治町介護保険特別会計予算を議題とします。

議場で提案説明がありましたので、直ちに質疑に入ります。  
質疑のある方、どうぞ。

〔「なし」の声あり〕

◎文教厚生分科会委員長 手嶋 いずみ

ないようですので、これで質疑を終わります。

日程第6、議案第8号令和8年度大治町後期高齢者医療特別会計予算を議題とします。  
議場で提案説明がありましたので、直ちに質疑に入ります。  
質疑のある方、どうぞ。

〔「なし」の声あり〕

◎文教厚生分科会委員長 手嶋 いずみ

ないようですので、これで質疑を終わります。

暫時休憩とします。

~~~~~ ○ ~~~~~

午前10時41分 休憩

午前10時42分 再開

~~~~~ ○ ~~~~~

◎文教厚生分科会委員長 手嶋 いずみ

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第7、議案第19号令和7年度大治町一般会計補正予算（第8号）を議題としま  
す。

議場で提案説明がありましたので、直ちに質疑に入ります。  
質疑のある方、どうぞ。

〔「なし」の声あり〕

◎文教厚生分科会委員長 手嶋 いずみ

ないようですので、これで質疑を終わります。

以上で本日の日程は全て終了しましたので、これで予算決算常任委員会文教厚生分科  
会を閉会します。

~~~~~ ○ ~~~~~

午前10時42分 閉会

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

文教厚生分科会委員長 手嶋 いずみ